令和６年度　学 校 評 価 書

学校名（東温市立上林小学校）

１　学校の教育目標　　自己をひらき、ともに学び、たくましく伸びゆく、上林っ子の育成

２　経営の基本方針　“ふるさと上林”に生きる自分に誇りと自信をもち、「人・もの・こと」との関わり合いを通して、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。

令和７年２月１２日

評価領域	評価項目 **太字・重点目標**	評価の観点	評価 教職員	児童	保護者	考察及び改善方策	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	○　いじめを許さない毅然とした指導と、適切な教育相談等を通した不登校への予防的取組ができた。	3.7	3.7	3.3	○　いじめ・不登校対策等への対応については、不安を抱えている児童の小さなＳＯＳを見逃さぬよう、教職員が一丸となって取り組んでいる。今後も児童のそれぞれの持ち味を生かした温かな関わりと安心感のある居場所をつくっていく。また、毎月のアンケートや教育相談、積極的な生徒指導を継続し、早期発見と早期解決に努めていくとともに、これら学校の取組を啓発することが必要である。 ○　基本的な生活習慣の定着については、学校生活外でも身に付ける必要がある。地域や家庭と連携しながら、相手の気持ちや状況に応じた心地よい言葉遣いについて指導を継続していく。 ○　望ましい行動様式については、生活安全・安全目標について意識付ける声掛けを行い、自律を促している。また、取組を振り返る時間を設けることで、目標と指導と評価の一体化を図っていく。	・児童は前年比より下落しているものの低評価者はいない。児童たちは安心して学校生活を送っていると見受けられる。 ・児童たちは共に言葉を交わし、仲間意識が強く、不登校を未然に防止している。情報モラル教室では親子で一緒に考える機会を設け、いじめ防止について学び良い機会を開催していた。 ・気持ちの良い挨拶や言葉遣いができている。今後も地道な指導をお願いしたい。 ・タブレット端末を活用した授業や家庭学習が増えることによって、児童はＩＣＴ機器の取り扱いに慣れてきている。 ・ＩＣＴ機器を有効に活用し改善が見受けられ、分かりやすい授業をしている。 ・体験学習については、地元の方々の協力の下、様々な取組をされ、充実している。準備等大変であったと思うが、来年度も積極的な取組をお願いしたい。 ・外部講師を招いての人権教育等も実施され、児童はいろいろな意見を発表しており、健全育成が日々推進されている。 ・新たに野菜の作付けや病気・有害鳥獣の学習も行い、「星の郷」の見学やご飯づくり等、有意義な教育ができたと思われる。 ・デジタル化を進めながら、児童一人一人の反応を確認し、授業が展開されている。 ・登下校時の見守り活動等、先生方が積極的に関わっていて安心である。通勤中に黄色のベストを着た保護者や地域の方を見掛け、安心して通学させることができる。 ・保護者の見守り活動が低調であり、平穏な地域だけに関心度が低すぎる。 ・下校時も地域の方々の見守りが必要なため、機会があるごとに取り上げていただきたい。 ・中予地区においても地震があり、防災意識を高める必要がある。 ・校報皿ヶ嶺やコミスクだよりは、学校行事の様子や児童の元気な姿が載っていて、小学校がより身近に感じられる。続けてもらいたい。 ・地域と連携した活動が、地域の方からの提案によって年々バージョンアップしている。国の登録記念物となった「風穴」を取り上げてはどうか。 ・ささゆり緑の少年隊活動は 30 年余りの歴史があり、先輩たちの植えた木を知るのも良い経験であると思う。 ・校内の掲示物の様子から、一人一人を大切にした学習環境づくりが行われている。 ・先生方が地域に溶け込んでいって、努力をしている姿勢はすばらしいと思う。 ・地域行事に、休日にも関わらず先生方が参加いただくことにより、児童の参加が増え、地域との交流も図れるので、今後も無理のない程度で参加をお願いしたい。
	基本的生活習慣の定着	○　気持ちのよい挨拶や、正しい名前の呼び方、時と場、相手に合った言葉遣いをしようとする態度を育てることができた。	3.5	3.8	3.5		
	望ましい行動様式	○　生活目標・安全目標に基づいて、指導の重点化を意識して指導を行った。	3.2	3.8	3.6		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	○　学習意欲の喚起と個に応じたきめ細かな指導の充実により、基礎・基本を定着させることができた。	3.3	3.5	3.6	○　基礎・基本の定着については、１人１台端末を活用したドリル学習を取り入れるなど、基礎的・基本的な学習の定着に努めた。今後も、子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、ＩＣＴ機器を活用した個別最適な学びを取り入れながらきめ細かく指導・支援していく。 ○　家庭学習の充実に関しては、各家庭と連携・協力しながら家庭学習の定着が図られている。１人１台端末を使った課題や自主学習、各学年の発達段階に応じた家庭学習カードでの毎日のやり取りは、児童の主体的な学習態度につながっている。 ○　ＩＣＴを活用した授業改善については、教職員が 0.2、保護者が 0.1 上昇した。デジタル教科書を投影したり、大型モニターを使用して表現活動を行ったりと積極的にＩＣＴ機器を活用した授業改善を推進している。今後も、児童のニーズに対応したＩＣＴ利活用の在り方を検討する。 ○　読書活動の推進については、教職員が 0.5、保護者は 0.1 上昇した。毎朝の図書館利用の習慣化に加え、関係機関と連携して子供の興味・関心のある本を充実させている成果である。	
	家庭学習の充実	○　「家庭学習の手引き」を有効に活用し、家庭の協力を得ながら指導に当たった。	3.2	3.7	3.5		
	ICT を活用した授業改善	○　ICT 機器を有効に活用し、「分かる・できる・楽しい」授業への改善に取り組んだ。	3.5	3.8	3.6		
	読書活動の推進	○　読書を通して、言葉を学び、感性や表現力、創造力を豊かなものにするため、読書環境の整備に努めた。	3.5	3.7	3.8		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	○　道徳の授業の充実や、実践に結びつく道徳教育・人権教育に教育課程全体を通して取り組んだ。	3.7	3.9	3.8	○　道徳教育の充実については、教職員は 0.1 下がり、保護者は 0.1 上昇した。生活場面で表出する児童の言動を見逃さず、人権の意義や内容について発達段階に応じて指導を継続している。 ○　仲間づくり・集団づくりについては、異年齢集団で様々な行事に取り組んでおり、高学年が下学年に対して模範的な行動を示す機会が多いため、今後も良き伝統として継続していく。 ○　健康づくり・体力づくりについては、教職員は 0.1 上昇し、児童は 0.1 下がった。健康で安全な生活習慣の定着や衛生面に配慮した生活習慣に関して、養護教諭のスピード感のある対応や保健だよりを活用して全教職員で指導している。また、不安傾向が強い児童に配慮したメンタルサポートを継続し、挑戦することの良さや楽しさも実感できる指導を行っていく。	
	仲間づくり・集団づくり	○　相手の気持ちを理解し、互いに認め合い、協力し、助け合う人間関係づくりを推進した。	3.8	3.8	3.8		
	健康づくり・体力づくり	○　早寝早起き朝ごはん、うがいや手洗い、歯磨き等の習慣を身に付けさせるとともに、児童の体力についての現状や課題を把握し、体力向上に関する指導を推進した。	3.8	3.7	3.4		
特別支援教育	特別支援教育の充実	○　授業のユニバーサルデザイン化を図るなど、特別支援教育の趣旨を生かしたよく分かる授業展開に努めた。	3.7	3.8	3.6	○　特別支援教育については、教職員は 0.4 上昇し、児童は 0.1 下がった。指導の重点を把握して準備をし、視覚的支援を充実させて授業に臨むように努めている。また、毎週全教職員が全校児童の様子や効果的な関わりについて情報交換し、指導に生かした。	
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	○　家庭・地域・関係諸機関との連携による登下校の安全確保や不審者対策を実施し、安全で安心できる学校づくりができた。	3.8	3.7	3.8	○　登下校の安全確保については、教職員は 1.0、保護者は 0.3 上昇した。登下校の見守り活動については、家庭・地域の方の協力が充実しており、大変有り難い。 ○　防災教育の充実については、教職員と児童は 0.2 下がったが、保護者は 0.1 上昇した。本校は防災士の資格を持っている教員が 86%おり、日頃から危機管理意識を持って教育活動を行っている。避難訓練では、火災発生現場の回避や予告なしの訓練など様々な状況を想定したり、消防署と連携したりしながら実施している。今後は逃げ遅れた児童、けが人の発生等も想定して取り組んでいく。 ○　施設・設備の安全管理については、教職員は 0.2、児童は 0.1 下がった。修繕や整備の必要箇所については、教育委員会と連携しながら早急な対応に努めている。地域や保護者の方から挙がった声に対応できた箇所もある。老朽化が進んでいるため、日常の安全点検を心掛ける。	
	防災教育の充実	○　防災マニュアルを策定し、日々の教育実践に役立てるなど、「みんなの命をみんなで守る」「自分の命を自分で守る」児童の育成に努めた。	3.3	3.7	3.9		
	施設・設備の安全管理	○　安全点検の徹底による潜在危険箇所の早期発見・完全除去及び防災・防犯につながる備えの確認をした。	3.5	3.7	3.5		
家庭・地域との連携	**開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進**	○　地域の人材を講師として活用したり、運動会、学芸会、稲作等の行事運営を PTA や地域と協力して行ったりするなど、学校運営協議会と連携して地域に開かれた教育活動を推進した。	4.0	3.7	3.9	○　学校運営協議会を核とし、これまで培ってきた学校・家庭・地域のつながりが更に循環し活動内容が深化することで、心豊かで地域を愛する子供が育っている。地域人材を活用し本物から学ぶ体験学習を充実させるなど、様々な教育活動を通して、児童の自己肯定感を育むことができた。 ○　地域とともにある学校づくりを目指して校報皿ヶ嶺とコミスクだよりを全世帯に発行し、学校と地域が一体となって子どもを育てるつながりの醸成を図った。各担当者が積極的にホームページを更新するなど、全校体制で開かれた学校づくりに努めている。	
	情報の共有化	○　学校だより（学年だより）、ホームページを工夫・充実し、保護者に児童の様子や学校の方針を理解してもらえるよう努めた。	3.8	3.4	3.9		
特色ある学校づくり	緑の少年団	○　緑の少年団活動への効果的な指導を通して、地域の美しく豊かな自然環境を守ろうとする態度を養うことができた。	4.0	3.7	3.9	○　緑の少年隊活動では、全校児童で森林公園へ行き、地域の方と公園の清掃をしたり、手づくりの環境ポスターを自らの手で貼ったりして、地域の自然を守り育てる意識と行動力が育っている。また、農業に携わる地域人材を招いての授業を充実させ、農家の努力や工夫についても学びを深めた。 ○　栽培活動では、地域の農家の方が参画し、多種多様な植物の作付を行うことができ、児童も意欲的に世話をする姿が認められるなどの成果があった。	
	栽培活動	○　植物や野菜等の栽培活動を充実させ、自然を愛護し、自他の生命を大切にしていく態度を育てることができた。	3.3	3.9	3.9		
施設・設備の充実	施設・設備の効果的な活用 （ＩＣＴの有効活用）	○　教育効果を高める環境整備と施設・設備・備品の有効活用を行った。	3.5	3.8	3.8	○　環境整備については、保護者が 0.3 上昇した。教育効果を高める施設・設備・備品に恵まれており、校務員の細やかな環境整備も併せて、学校の充実した教育活動を支えている。 ○　児童一人一人の成長過程が視覚的に分かる掲示に努め、地域の方との触れ合いや感謝等が実感できる環境づくりを行っている。また、地域の人材コーナーやふるさとコーナーも設置し、地域の方に見守られながら子供を育てる環境を整えている。	
	学習・生活環境充実への取組	○　一人一人を大切にした掲示や安らぎと潤いのある環境づくりに努めた。	3.7	3.8	3.9		